

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	伊藤 智之	学校名	茨城県那珂市立第一中学校
実施学年	中学2年	教 科	国語科
単元名	根拠を吟味して書こう(意見文)		

«学びを深めたいポイント»

根拠を明確して書くという前年度の既習事項を踏まえて、根拠を「吟味」して書くという点が、系統性においてポイントとなる。

自分の思考の中から生まれた複数の根拠を吟味することにももちろん意味があるが、ここでは、友達の考えを可視化し、共有することで、他者の考えも含めたより複数の根拠を吟味し、自分の意見文の中に取り込むことで学びを深めたいと考えた。(文章を)書くことが苦手、何を根拠にしていいかが分からないうから書けないというように取り掛かりに困難さを覚える生徒にとっても、材料を共有することで、つまずきを克服できることが期待される。また、上位の生徒にとっても自分より説得力の優れた根拠に出会うことで学びのさらなる深まりが期待される。

«SKYMENU 活用のポイント»

①学習成果物の一元化

本单元全時の学習成果物を「発表ノート」に一元化する。ノートや、紙、ワークシートなど、紙媒体に思考をおこしていく方がやり易いと考える生徒にはそれを認める。ただし、その写真を撮り、発表ノートに貼付させて発表ノートに一元化して提出という線は共通させる。一定の共通フォームで学習を進めることで、生徒同士の比較検討が行いやすいという利点と、授業者として評価のし易さが挙げられる。さらに単元全体で用いるワークシートを事前に配付できるため、生徒も活動の見通しがもちやすい。また、提出箱内での学習者同士の閲覧を可とすることで、授業時間では見られなかった他者の作品を見て、さらに学びを深めるための時間が補完されることが期待できる。

②「気づきメモ」の活用

課題について考えた根拠をそれぞれの立場に応じたグループ内で気づきメモに書く。

(立場について A 派はグループ①、B 派はグループ②に書き込むといったようにルームを分ける)

自分が投稿し終わったら、他者の投稿を見て、根拠が優れているものに「いいね」を押すようにする。この過程で、本单元の学習のねらいである、「根拠を吟味すること」の一端が達成される。

その後、今度は他方の立場のルームに入り、そこで情報を見ることで、自分の側へのどんな反対意見が根拠として述べられる可能性があるかを予想することができる。

③ 構成表の活用

発表ノート上で、意見文の構成を短冊状に作成。構成表に沿って書いていくと、一つのまとまりをもった意見文ができる仕様にした。短冊をそれぞれ次頁にコピーし、加除訂正することで、意見文の清書が完成する。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント				
導入	1 本時の学習課題を確認する。 1 自分の立場を決める → 2 根拠を考え、吟味する → ③ お互いの根拠を吟味し合う → 4 意見文を書く → 5 完成した意見文を読み合う						
	2 本時の活動の流れを確認する。						
展開	3 ※「二者択一の課題」について、それぞれの利点・欠点を発表ノートに書き出す。	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #f0f0ff;">利点</td> <td style="background-color: #f0f0ff;">欠点</td> </tr> <tr> <td>・利点の欄に書き込んだり、赤枠で囲んで記入する。</td> <td>・欠点の欄に書き込んだり、青枠で囲んで記入する。</td> </tr> </table>	利点	欠点	・利点の欄に書き込んだり、赤枠で囲んで記入する。	・欠点の欄に書き込んだり、青枠で囲んで記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙のワークシートと同じフォームを発表ノートで作成。タブレット操作が苦手な生徒は紙のワークシートに記入できるようしている。 ・発表ノートに作成することで、利点を赤枠、欠点を青枠など、視覚的に差別化できるようにした。 ・「気づきメモ」に投稿された友達の根拠に「いいね」を付け合することで、自然と吟味する視点をもたらせた。(副次的な効果として「いいね」をもらうために丁寧に根拠を示すようになった) ・「気づきメモ」上でディスカッションすることで、グループの数が大人数でも、だれもが意見を述べやすくなつた。 ・「気づきメモ」上で、反対の立場のグループにも行き来することで、反対意見も含め、根拠(意見文の材料)をグループの考え方として、たくさん吸収することができた。
利点	欠点						
・利点の欄に書き込んだり、赤枠で囲んで記入する。	・欠点の欄に書き込んだり、青枠で囲んで記入する。						
4 決定した立場に基づいて、「気づき」メモで根拠を共有し、吟味し合う。	<p>自分のメモ 気づきメモ 並べて表示</p> <p>14:07 2023年10月31日(火)</p> <p>Aは駅や駅周辺の中にはいると目立たないからどこだかわからなくて行く人が少ない 14:07</p> <p>ショッピングモールの中にできると目立たないからどこだかわからなくて行く人が少ない 14:08</p> <p>Aはショッピングモールは電車や利用客などによる騒音があると思うからBのほうが良い 14:08</p> <p>「教育と文化の街」というスローガンを掲げているから学生が使いやすいBがふさわしい 14:10</p> <p>莘莘校や、看板が近くにあるためみんなの利用が多くなるから 14:12</p>						
まとめ	5 自分の発表ノートに、説得力が優れていると思った根拠を「気づきメモ」から取り込む。						
	6 本時の活動を振り返るとともに、次時の活動の見通しをもつ。	<p>意見文の構成を考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の意見文を書くための「構成フォーム」を発表ノート上で確認する。 				

※1「二者択一の課題」

D市で、図書館の分館を一つ新設することになり、下の地図の「A ショッピングモール」の中と、「B スポーツセンター」の中が候補地となっている。下の地図と参考資料を踏まえて、A ショッピングモールと、B スポーツセンターのどちらかがよいか、根拠を挙げて意見文にまとめよう。
(地図と参考資料は掲載省略)

«実践を振り返って»

SKYMENU 活用のポイントで述べたとおり、SKYMENU の機能を使うことで、様々な学習への恩恵が得られたと感じている。重複になるが、具体的には、以下の利点を感じた。

①一元化

単元で用いるワークシートを、「発表ノート」を介して一括配付することで、生徒が学習の見通しをもてるようになった。また、評価がし易くなった。

また、タブレット一つで学習材が完結していることで、根拠を考える際、インターネットからデータなどを収集し、事実に基づく客観的な根拠を集めやすくなるという副次的な効果が得られた。

②資料を容易に閲覧できる

教科書を開くのを億劫がる生徒も、タブレット上で課題に対する設定(地図など)を手元で確認することで、主体的に学習を進めていた。

③機能の併用、往還

「気づきメモ」と「発表ノート」の併用、往還が特に効果的であった。

気づきメモ上の投稿は、豊富なデータベースとなることを感じた。自分がよいと思った情報(根拠)をグループの意見として発表ノートに取り込んだり、必要があれば、再度気づきメモにアクセスし、吟味しなおしたりするなど、往還することで学習がより定着された。

④コピー機能

「構成表」を短冊状にして、カラーリングした。構成表の短冊に入力したものを発表ノートの次ページにコピーし、それぞれを加除修正することで、無駄に何度も書くということがなくなり、書くことへの負荷が軽減された。また、完成された意見文を互いに読み合う際、各段落ごとにカラーリングされているため、「立場が明確でよい」「根拠①の内容がすばらしいなど」、観点を明確にして感想記入できることに繋がった。

(まとめ)

今回は国語の中での実践であったが、この中でも特に「気づきメモ」と「発表ノート」との往還はどの教科でも、使い勝手よく学習が自ずと深まる手段であると感じた。そのため、積極的に自身で活用していくとともに、総合的な学習の時間など全体で取り組む活動の際も、今回の実践で感じられた利点を同僚と共有しながら生かしていきたいと感じた。